

子どもの家庭生活と共感性、個別性、セルフ・エスティーム（第6報） 家族問題への対処に関わって
木田淳子^{*}、奈良由美子^{*}、藤田祥子、守野美佐子、○高野愛子、辰巳理恵子、野口知有^{**}、藤本多賀子^{**}

(*大阪教育大、**大阪教育大・院)

【目的】 家族問題への集団的対処力が、子どものセルフ・エスティーム、個別性、共感性の形成に対してどのような影響を及ぼすかについて検討する。

【方法】 小5・中2・高2を対象として質問紙法による調査を実施した。調査方法についての詳細は第1報に同じ。調査項目として、1) 子どもの悩みに対する集団的対処力、2) 家族問題に対する集団的対処力をおさえる。これら2つの項目と、共感性、個別性、セルフ・エスティームの各項目との関連性をクロス集計によるカイ二乗検定に基づき検証・考察していく。

【結果】 家族問題への集団的対処力は、子どものセルフ・エスティーム、個別性、共感性に対してプラスの影響を及ぼしていることが明らかになった。また、子どもの悩みへの集団的対処力は、子どものセルフ・エスティーム、個別性に対してプラスの影響を及ぼしていることがわかった。